

自然ふれあい講座(セミのぬけがらを探せ! 2025) 実施報告

Report

この講座は、毎年同じ時期に同じ場所でセミのぬけがらを集めて、それらの種類と数を調べることで、地球温暖化など環境の変化が身近な生き物であるセミに及ぼす影響について考えるという内容で 2012 年から行っています。主に小学生を対象としています。

今年も県内の 6 会場で開催しましたが、最も事前申込者数の多かった長野会場が雨天中止となってしまう、参加者数は昨年よりも少ない合計 69 名(うち子ども 41 名)でした(表 1)。それでも、松本会場や飯田会場では 600 個を超えるぬけがらが集まりました。

表 1 各会場の参加者数とぬけがら数

開催日	会場	参加者数	ぬけがら数
8/1(金)	大町(市立大町山岳博物館)	6名(うち子供4名)	142 個
8/3(日)	飯田(かざこしこどもの森公園)	28名(うち子供17名)	960 個
8/4(月)	松本(アルプス公園)	11名(うち子供6名)	650 個
8/5(火)	伊那(鳩吹公園)	15名(うち子供9名)	265 個
8/6(水)	上田(市民の森公園)	9名(うち子供5名)	340 個
8/7(木)	長野(川中島古戦場史跡公園)	雨天中止	雨天中止



写真1 みんなで地面に落ちたぬけがらを探している

講座の前半では、セミのぬけがらを集めました(写真1)。最初はぬけがらがなかなか見つからない子どもたちも、ぬけがらは木の幹だけに付いているのではなく、小さな草にも付いていたり、地面に落ちてるものもあるのがわかると、どんどん見つかるようになってきます。講座の後半は、集めたぬけがらを大きさ、色の具合、そして触角の特徴(ふしの数とその長さや太さ)などをたよりに、種類ごとに分類しました。なかなか大変な作業ですが、ちょっと珍しいぬけがらが何れミなのかを知ることができたり、人一倍たくさんのぬけがらを集めて嬉しかったり、楽しく自然環境にふれあうことができたようです(写真2)。



写真2 たくさんのぬけがらの中に二種類の仲良しなぬけがらがありました

ぬけがらの分類が終わったら、みんなで集めたぬけがらの種類と数を集計します。アブラゼミはどの会場にもいますが、松本の会場にはミンミンゼミ、伊那の会場にはヒグラシ、上田の会場にはエゾゼミ、もそれぞれ高い割合でぬけがらが見つかったことが特徴的です(図1)。同じ長野県内でも標高や地形などの違いに応じて気候や植生が異なるので、会場毎に見つかるセミのぬけがらの種類が異なると考えられます。年次変化に着目してみると、松本の会場ではアブラゼミのぬけがらの割合が増えてきているかも知れません(図2)。このような変化の原因が何なのかを明らかにすることは簡単ではありませんが、この講座を通じて子供達が自然環境に親しみをもちつつ、地球温暖化などの環境の変化について関心を持つきっかけになればと考えています。

最後に、参加者のみなさん(特に子どもたち)には楽しんでいただけたようでとてもうれしく思っています。また暑い中、各会場ではボランティアスタッフの方々にご協力いただき、感謝しています。(栗林 正俊/自然環境部)

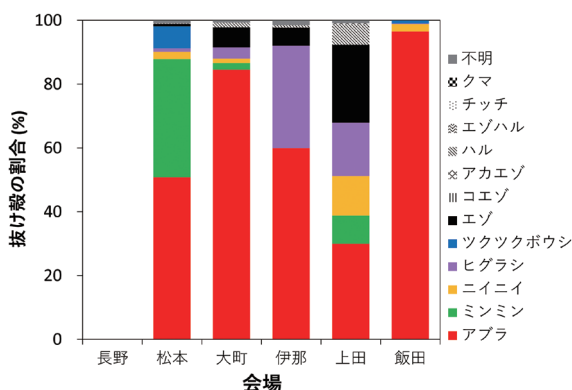


図1 2025年の各会場におけるセミのぬけがらの種類毎の割合

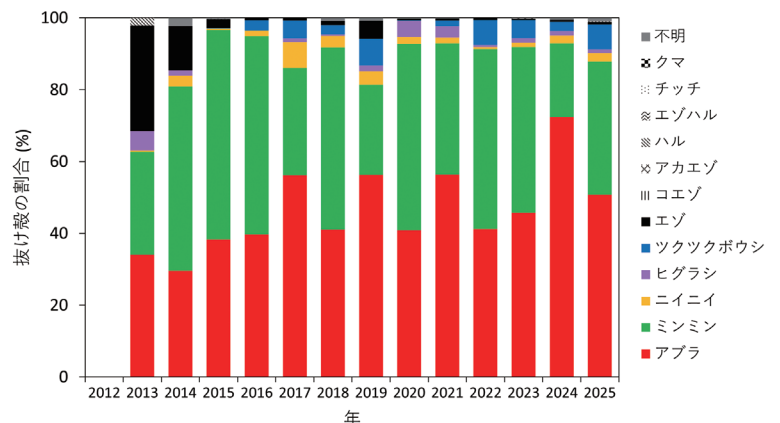


図2 松本市アルプス公園における各セミのぬけがらの割合の年次変化

